

挑戦!

ニュートライアル

在宅医療専門のクリニックで、
在宅での緩和ケア
(ホスピス) に注力したい!



広島在宅クリニック 広島市中区千田町

広島市内の中心街から少し離れた中区千田町のマンション・ビルの一角に、今年(2005年)4月に開業した「広島在宅クリニック」があります。その名前の通り、ここは在宅医療を専門に行うクリニックです。クリニックの中に入るとそこは、受付・待合スペースと応接室があるだけのシンプルさです。小西太院長は、ここから1日中、黄色の自動車に乗って訪問診療に出掛けます。みかけはホームヘ

ルプステーションや訪問看護ステーションなどの車両と変わりませんが、ポータブルタイプの心電計や超音波診断装置(エコー)まで積み込まれ、通常のクリニックで行う診療に必要な機材は一通り揃えています。まず、小西太院長に開業の経緯からうかがいました。

「在宅専門のクリニックは、10年くらい前から考えていました。“移動クリニック”というか、病院機能がそのまま移動できて、患者

さんのもとに向いていけるようなイメージです。そんなことを漠然と考えているとき、宮城県仙台市に『仙台往診クリニック（川島孝一郎院長・平成8年開業）』という在宅医療に特化したクリニックがあると知りました。末期がんや難病の患者さんのもとに、ポケットベル（現在なら携帯電話？）を鳴らしながら駆けつける川島先生の様子を報道などで拝見し、とても感銘を受けました。その後、私は安芸市民病院で緩和ケア病棟を担当することになりましたが、そのとき、自宅で終末期を迎えたいという患者さんがかなりいらっしゃるのことが分かりました。こうした方々の希望をかなえることができないものが、いろいろと考えた結果、在宅医療に特化した形態での開業を決意しました。」



訪問看護ステーションとの連携

こうして小西院長は、緩和ケア病棟（ホスピス）の担当になり、広島のターミナルケアの事情について詳しくなるにつれて、在宅専門クリニックでの在宅ホスピスは可能との確信を得たとのことでした。そのためには訪問看護ステーションとの連携が不可欠だと小西院

長は語ります。

「実際、広島市内では早くから訪問看護ステーションが数多く開設されています。そのため、それぞれのステーションに得意分野という特徴ができてきて、今では役割分担が明確になってきているようです。中でも、ターミナルケアに注力している訪問看護ステーションが当院の比較的近い場所にあり、お互い患者さんの紹介をし合ったり、いろいろと情報交換させてもらっています。」



小西太院長と訪問診療車

無菌調剤ができる保険薬局も稼動に

さらに小西院長は無菌調剤室を装備した保険薬局が広島市内にあると語ります。抗がん剤や高カロリー輸液などが保険薬局で無菌調剤できれば、とても助かるとのことでした。

その薬局は、株式会社ホロンが展開する「すすらん薬局」です。すすらん薬局では、ずっと以前から訪問薬剤管理指導に力を入れてきましたが、「大手町店」で今年4月から無菌調剤室が稼動し始めました。

さっそく薬局にお邪魔し、無菌調剤室顧問の山崎通子先生に話をうかがいました。

「私は安位市民病院で十数年無菌調剤に従事してきましたが、薬局では病院と違い、診療材料の手配も含め患者さんへのお届けまでのすべての業務過程に気を配らなければならず、勉強になることも多いと感じています。



↑無菌調剤室の様子

一薬を届けに
出発する在宅
訪問車

また、無菌調剤の実地研修を通じて微力ながら私の経験を1人でも多くの薬剤師に伝えていけたらと思っています。そして在宅医療に力を入れておられる医療機関や訪問看護ステーションの皆様にごことを知っていただき、信頼される存在になれるよう努力していきたいと思っています。」まだまだ無菌調剤を実施している患者さんは少ないですが、今後は在宅中心静脈栄養療法だけでなく在宅化学療法、在宅自己疼痛緩和療法の要望にも答えていきたいと意欲満々です。在宅ホスピスを支える

力強い仲間がまた一つ増えた形になりました。

在宅医療の支援体制を広島全体に

小西院長は3ヶ月間訪問診療に専念してみても、こう語ります。

「病院から自宅療養に切り替えて家族と一緒にいるとやはり患者さんの表情が違ってきます。やはり自宅で自由に好きなことができるとなると気持ちも明るくなり、活動的になります。家族の励ましてリハビリへの意欲が出てくることも多いです。

訪問の範囲は20分でいけることを基本的に考えています。風邪などの流行で多いときは1日16人訪問したこともありますが、通常は1日8人くらいです。1人で診れる患者数は物理的に限られます。もう少し余裕はありますが、今後ターミナルケアの患者さんが増えると意外に早く限界が来ると予想されます。私が行けないような遠い地区の患者さんからの要請も増えてきています。この分野のニーズは予想以上に高いと実感しています。私と同じような考えをお持ちの先生方には、ぜひ開業していただき、一緒に広島の在宅医療を支援していきたいものです。」

小西院長のように若く情熱を持った医師が数多く在宅医療に参画され、訪問看護ステーションや保険薬局等のサポート体制の中で、全国のモデルケースとなるような在宅医療の支援体制が広島で構築されることを期待しています。<K.K.>